

つながる 子どもを想う気持ち



たくさんの大人が出入りする小学校!?

高崎市立吉井西小学校では、先生以外にも、多くの大人が学校に出入りする、少し不思議な光景が見られます。いったいどんな人たちが集まってきているのでしょうか。

答えは、「この学校に通う子の保護者や、近所に住んでいる地域の方々」です。この人たちは、学校をあらゆる面でサポートすることを目的に集まった、ボランティアです。



環境整備ボランティア

吉井西小には、読み聞かせをする「読書推進ボランティア」や、書道やマシンなどを教える「技能活用ボランティア」、授業時間外で子どもの勉強を見る「寺子屋ボランティア」など、実に10種類ものボランティア活動があります。

平成27年度は、実人数307名、延べ

1,420名の方が、ボランティアとして活躍しました。この中には、学校周辺のパトロールボランティアは含まれていないので、実際は、もっと多くの方々が学校支援に携わっていることになります。

「子どもたちも、ボランティアの支援を楽しみにしており、学校としてもありがたく思っています。」と、校長先生は目を細めます。

保護者



色々な大人とふれあえて、子どもも楽しんでいる。ボランティアには守秘義務があり、安心して任せられる。

地域の方



とてもやりがいがある。子どもに親しんでもらえるのが嬉しい。

担任だけでは目が届ききらないところをカバーしてくれたり、書道など地域の方の専門知識を活かした深い学習ができたりするので、ありがたい。

教員



自分が大きくなったら、ボランティアになって学校の手伝いをしたい。

子ども



学校現場の声

カギはコーディネーター

「とはいえ、これほど多くのボランティアに入っていただく段取りをするのは、教員にはとても無理です。」と、校長先生。「学校支援センターの5人のコーディネーターが、学校とボランティアのつなぎ役を果たしてくださっていることが非常に大きいです。」

「コーディネーター」の方々に、お話を聞いてみました。

Q. もともととはどんな立場の方々だったのですか。

5人とも、自分の子どもがこの学校に通う保護者でした。今はみな卒業してしまっただので、「地域住民」ということになります。コーディネーターとして、8年~10年務めています。

Q. どのような役割を果たされているのですか。

日替わりで学校支援センターに常駐し、学校のニーズを聞きながら、各ボランティアさんとの連絡調整や、情報発信などを行っています。

Q. ボランティアはどのように集めているのですか。

こちらから公募もしていますが、ボランティア同士の口コミで来てくださる方が多いです。人と人とのつながりに頼るところが大きいです。

Q. 長続きのヒケツは。

私たちの合い言葉は、「出来るとき・無理なく・仲良く・未永く」です。各自ができる範囲で協力し合っています。また

コーディネーターとしては、立場をわきまえて、でしゃばりすぎないように気をつけることと、自分たちのやり方に固執せず、変化する学校のニーズに常に耳を傾けることを大切にしています。

吉井西小は、長年の取組が認められ、平成23年度には、優れた地域による学校支援活動で、文部科学大臣表彰を受賞し、また平成25・26年度は、文部科学省からコミュニティ・スクール推進事業の指定を受けました。



コーディネーターの皆さん(後列)
5人そろって、楽しさ5倍、辛さ1/5
前列右から地域のボランティアの方、校長先生、教頭先生